

和歌山病院での実習を終えて



生地 みづ穂

和歌山病院での実習は、大学での実習と雰囲気が異なり、気持ちもリフレッシュできたようなとても充実した二日間でした。

実習内容としては結核病棟の見学とセミナーを受けました。結核病棟は和歌山県で唯一ということで初めての見学でした。陰圧管理や二重扉、N95 マスクの着用など一般病棟と比べるとやはり厳重な管理がされていましたが、思っていたよりも物々しさはなく、隔離病棟へのイメージが明るくなりました。結核に対するセミナーもあり、結核は空気感染のみであり、必要以上に感染防御することはないなど学びました。患者に不快感を与えず、自分の安全を守るためにも正しい知識を身に付けておかなければならないと感じました。

セミナーは少人数で受け、各先生方の工夫でその場で考えることが多く、とても印象に残りました。レントゲンの読影についてのセミナーでは根本的なことから教えていただき、今までぼんやりとしていたことがよく分かるようになりました。学んだ内容をもとに今後画像をたくさんみて、正しく異常、正常が見えるように勉強していきたいと思います。また呼吸器のセミナーでは実際に体験させていただき、患者のつらさも少し感じる事ができ、良い経験でした。

また南方先生のお話の中で、先生は御坊市の歴史など地域の情報をとても詳しく知ってらっしゃることに驚きました。私は和歌山出身ではないのですが、県民医療卒というもので大学に入学しており、卒業後は和歌山で働くことになっています。そのときに地域のことを知っていたらよりその土地に愛着をもって働くことができるのではないかと思います、調べてみようと思いました。

最後になりましたが、お忙しい中、本実習でご指導下さいました南方先生はじめ和歌山病院の先生方、お世話になりました事務の方々、本当にありがとうございました。今回の実習で得たことを今後の実習に生かし、良い医師になれるよう勉学に励みたいと思います。